

1. 選手強化（競技の研究や選手指導など）

次の事業について選手他を派遣した。全国小学生、国体、東日本女子駅伝、U18 / U16 大会、東日本女子駅伝、全国都道府県対抗駅伝。これらの派遣に伴う強化合宿・練習会・クリニック、指導者講習会の実施。強化部が開催する国体候補・一線級強化練習会等は、中学2年生以上のジュニア世代も含め実施した。成果としては、世界選手権3名出場、U20世界陸上1名入賞、全日本中学優勝1・入賞4、全国高校優勝1・入賞8、高校定通優勝4・入賞4、全国高専総合男子3位、女子2位、国体天皇杯55.5点14位、皇后杯24.5点18位、東日本女子駅伝8位、全国高校駅伝男子2位、女子優勝、全国都道府県対抗駅伝男子優勝、女子11位など成果を高めた。

2. 普及育成（講習会の開催および指導者の養成など）

全国大会のコンバインド導入により、クラブチームの小学生を中心に、複数の種目に取り組むようになってきた。このことは、中学生になっても複数種目に取り組むことや、陸上競技を継続しやすくすることに貢献できると思われる。陸上教室・選抜練習会の実施(7月)、選抜練習会(R5年3月)はジュニア部と合同で実施した。全国小学生交流大会には選手11名が参加し4種目に入賞した。

公認コーチは県国スポ準備室の助成を得て、コーチ3、コーチ1それぞれ4名が取得した。また、スタートコーチ養成講座を日本陸連のご指導ご協力を得て、12月に長野市営陸上競技場で25名の受講者が参加し開催した。

3. 競技会の開催

新型コロナウイルス感染防止対策（参加者数の制限や競技者と観客の動線分離、スタンドの使用区分）を確実にを行い、本協会主催(中・高体連を含む)22大会を実施できた。残念ながら長野県障がい者大会は中止となった。その他、日本陸連他主催第24回長野マラソンの主管、全日本大学駅伝北信越予選会の運営協力を行った。

4. 審判員の養成およびその資格を認定

今年度は、昇格者S級3名、A級8名、B級新規取得61名(一般23名・高校・高専3年生38名)となった。2018年度から実施している高校3年生を対象とした講習会を今年度も別枠で実施(地区新人大会時)し、取得を勧めた。長年のB級審判員に、A級昇格を強く働きかけたい。

5. 機関紙および刊行物の発行

2022年度要覧を4月22日に発行し、登録会員全員に配布した。長野陸協会報はJSC(独立行政法人日本スポーツ振興センター)「スポーツ振興くじ」の助成を得て、175号(8月11日)、176号(12月1日)、177号(R5年3月31日)を各3000部発行した。また、長野陸協ホームページ上で、各種事業・大会等、日本陸連、日本スポーツ協会、長野県スポーツ協会、長野陸協賛企業各社他の情報を随時提供している。(株)杏花印刷がR5年3月12日に発売した「長野の陸上競技2021総集編」(中学・高校生版)を監修した。

6. その他（陸上競技協会の目的を達成するために必要な事業）

松本平広域公園陸上競技場が取り壊されるため、「Last run 閉場記念 第75回長野県陸上競技選手権大会(記念イベント)」として、JSC「くじ助成金」の交付を得て実施した。また、3年ぶりに本協会アスレチックスアワードをR5年2月に、都道府県対抗男子駅伝優勝祝賀会とともに、来賓を含む122名の参加により開催できた。